

三菱樹脂OB会 発足の経緯

前史

昭和54年、故角谷清明氏をはじめとする有志10余名が集まり、「長浜ゴム時代の在職者で、定年退職した管理職」を対象とする「OB会」をつくろうと準備をはじめた。

昭和55年に第1回の行事を開き、おおむね2年に一度開催していた。行事は総会、パーティー、工場見学、観光などで、一泊2日、場所は長浜であった。

平成元年、登録メンバー数は96名で、すでに5回の行事が開催されていた。しかし、会が非公式であったため、名簿の不備、慶弔の取り扱いに都度苦慮する、個人が事務局を担当して管理が難しいなどの問題があり、問題打開のため、OB会の有志より会社に対して、協力が要請された。

会社では、プロパーの退職者が増えている状況もあり、総務部がこれを受けて、「OB会」の設立に向けて検討に入った。(会社側は森谷、柳沢、岩田の諸氏)

「共に三菱樹脂の発展に尽力した先輩を大切に」「OBの退職後の有意義な生活の一助に資する」ことを願い、従来のOB会を継承した上で発展的に組織化することとして、名称、対象者、組織、活動内容、運営費用と財源などの検討がなされ、予算措置など社内稟議を経た上、設立準備に入った。この時、運営の基本的なこと、および会費、運営資金などの大枠が方向づけられた。

設立準備

平成2年、発起人が「趣意書」、「会則案」をもって入会の勧誘を始めた。発起人代表は大和田昇氏、発起人は青山敏雄氏以下19名であった。

次記の趣意書から当時の設立発起人や関係者の思いが伝わってくる。

「昭和21年2月、戦後荒廃のさなか、琵琶湖畔に呱呱の声をあげた長浜ゴム株式会社は、四十有余年の歳月を経て、プラスチックの総合加工メーカーに転身、いまや豊かな社会づくりに貢献する三菱樹脂へと成長を遂げた。その間、激動する歴史と共に幾多の難局に遭遇するも、我等、諸先輩の驥尾に附し、同僚相励まし、之を乗り越えてきた。省みて、転た感慨、聊かの誇りをも禁じえない。昭和五十五年、感慨を同じくする者十数名、故角谷清明氏を中心に、当社揺籃の地長浜にて OB の会を結成、爾来故吉田松蔵氏、次いで西川稔氏の肝いりで……親睦を深めてきた。(後略)」

設立総会

設立総会は東京で平成2年10月1日に開催された。発足時会員数は183名であった。

以上